

令和5年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原北小学校	校長	神原 雅彦	生徒指導主事	高田 雄太
取組事例名	『クラス会議～共同体感覚と自治的風土を育てる～』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
4年前、「思いをうまく伝えることができない」「自分たちでトラブルを解決することができない」という実態があり、「クラス会議」を全校で導入し、今年度まで継続して取り組んでいる。ねらいは①自分の居場所を感じられ、他者と繋がっていると感じられる共同体感覚を養う②自分たちで決める・実行するという自治的風土を築く の2点である。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の思いや悩みに寄り添うことができる。 自分の思いや悩みを言葉で表現し、友達に相談することができる。 自分たちのことは自分たちで決め、実行することができる。 目を見て体を向けて聴く、発言の順番を守る等、ソーシャルスキルを身に付ける。



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
<p>上越教育大学大学院赤坂真二教授が提唱されている『クラス会議』をベースに進めている。</p> <p>【基本的な進め方と本校6年2組の実践】</p> <ol style="list-style-type: none"> 輪になる（時間前） あいさつ 話し合いのルール いい気分・感謝・ほめ言葉（アイスブレイキング） 前回の解決策のふり返り 議題の提案 話し合い <ul style="list-style-type: none"> 解決策を集める 解決策をしぼる 決まったことの発表 ふり返り 先生の話 あいさつ <p>子どもたちの発言より 「〇〇さんが困っていると聞いて、自分たちに何かできるかを考えられた。明日から行動に移したい。」</p> <p>【参考文献：赤坂真二『赤坂版「クラス会議」完全マニュアル』</p>	<p>児童にめあてをもたせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> 議題提案の際に教師が介入し、「この議題が解決しなかったらどうなるか。」 「悩んでいる理由は何だと思うか。」など、全員が議題に対して同じ土俵に立ち、子どもの心に火を付けるための切り返しを行う。 <p>児童の意欲を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> クラス会議で決めたことは必ず1週間やりきらせ、クラスで決めたことを大事にしていく風土を築く。 話し合いは子どもたちに「委ね」、必要な場面（人権侵害、進行上どうしても難しい場合など）のみ介入する。 <p>児童の頑張りを認め、価値付けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> 「先生の話」では、子どもたちの話し合い中のキラリと光る発言や様子を具体的に子どもたちに伝える。「〇〇くんは〇〇さんの悩みに寄り添って、自分事として一生懸命考えていたね。」「うなずきながら聴けているね。」など。



3 成果と課題
<p>成果①子どもたち自身で学級を創っていくという自治的風土を築きつつある。</p> <p>②子どもたち同士の温かな関わり合いが学校生活全体を通して見られるようになった。</p> <p>課題①「何のためにクラス会議を行っているのか」を継続して意識するのが難しい。</p> <p>②子どもたちに「委ねる」ために、どのような介入をしていくべきかが難しい。</p>